

水稻の初中期管理

～適切な管理で収量・品質の向上を目指しましょう！～

香川県西讃農業改良普及センター (R6.6)

1. 田植え

○適切な植付の目安

- ①栽植密度：15～19株/m²
(株間：18～22cm)
- ②植付本数：3～4本/株
- ③植付深度：2～3cm

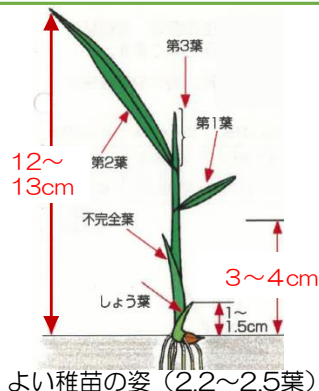
◎植付前に田植機の設定を確認しましょう！

○箱処理剤の施用

使用時期	薬剤名	使用量	使用回数
播種時(覆土前) ～移植当日	イバ-ゴルアラ 箱粒剤	50g/箱	1回
移植3日前 ～移植当日	ビルダ-フェルテラエス GT粒剤		

- ①苗箱へ規定量を均一に施用する。
- ②苗に薬剤が付着した場合は、払い落として下さい。

◎病害虫被害軽減のために必ず施用しましょう！



2. 初中期除草剤

除草剤は使用方法を守って適切に使用しましょう！

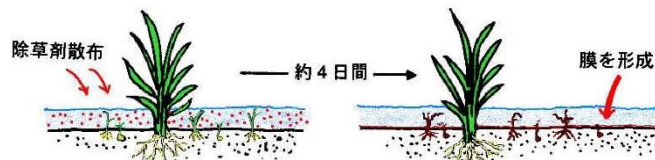
使用時期	薬剤名	10a当たり使用量	使用回数
移植直後～11日	カチボシフロアブル	500ml	1回
移植直後～7日	カチボシジャンボ	30g×10個	
移植時または移植直後～9日	ジェイソウル1キロ粒剤	1kg	

○使用時の注意点

- 補植は除草剤散布前に実施しましょう。
- ほ場全体に薬剤を拡散させるため、**深水(5～7cm)**で施用しましょう。
- 施用後**3～4日間は湛水状態**を保ってください。
- 強風時や藻類が表面を覆っている場合は、ジャンボ剤の施用を控えましょう。

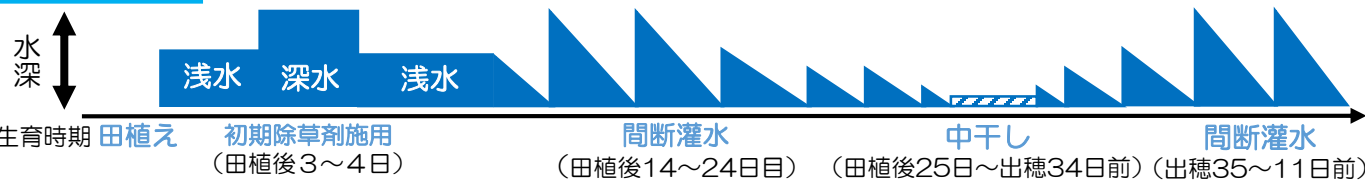


藻類の発生



初中期除草剤は、水に溶けた後に**土壌表面で処理層を形成すること**で効果を発揮します。

3. 水管理



○ほ場内でガスが発生しているときや、以下の症状が現れた時は落水して根の傷みを回復させましょう。



水の溜めすぎ (左：赤枯れ症状、右：株元が黒い)

○過度な中干しは根を傷める原因になります。亀裂幅が1cmを超える場合は走り水をしましょう。



中干しの様子 (左：適切、右：干しすぎ)

4. ジャンボタニシ対策

○ジャンボタニシが発生しているほ場では、移植直後から食害による欠株が発生します。

○対策のポイント

- 取水口に9mm目合いのネットを設置する。
- ジャンボたにくん、スクミノンはジャンボタニシが活動したのを確認してから施用する。
- 初期除草剤の施用後～移植後3週間は浅水(1cm以下)で管理する。



水稻の生産維持・拡大にご協力ください！

シートベルト・ヘルメット等を着用し、農作業事故を防止しましょう！

麦わらすき込みや浅水代かきを行い、環境に優しい農業を実施しましょう！